

基礎的な語彙を「使えるレベル」へとつなげる授業開発

— 教師の語りによるリスニング活動を通して —

学籍番号	239307
氏名	原 一真
主指導教員	橋本 健一
副指導教員	篠崎 文哉

1. 研究背景

2022 年から導入された高等学校の新学習指導要領は、旧学習指導要領と比較すると学習語彙が大幅に増加しており、この学習語彙の多さが英語嫌いの主要原因の 1 つであると言われている（土屋, 2007）。実習校の高等学校でも毎時間新出語彙が導入され、語彙学習に苦戦している生徒が多かったが、新出語彙だけでなく中学校で学習するような基礎的な語彙においても苦戦している生徒が多く見受けられた。これらの基礎的な語彙は発信語彙として習得することが目指されているが、授業内で語彙学習に焦点を当てた指導を行うことは時間的制約もあり難しく、語彙学習は生徒個人の自主学習に依存している面もある。しかし、英語学習における語彙とは英語技能の根幹を支えるものであり、特に基礎的な語彙は使用頻度も高く、「使えるレベル」にするためには語彙の深い知識の獲得が必要である。

よって本研究は、授業内におけるリスニング活動と音読活動において効果的な語彙指導を行い、これらの活動を通じて生徒の基礎的な語彙の習得を促すことを目的とし、その指導法の効果を検証する。

2. 先行研究

効果的な語彙指導を行うために、Barcroft（2015）は学習者が限られた認知資源を十分に語彙学習へと配分することで、語彙習得を促進できると述べている。そもそも、語彙習得のプロセスは①語形の習得、②意味概念の習得、③語形と意味概念を結び付けること（マッピング）の 3 つで構成されており（Barcroft, 2015）、実習校の生徒は基礎的な語彙の習得において、特にマッピングに課題がある。語彙習得を促すためにも、生徒が限られた認知資源を語彙のマッピングへと配分できるようにすることが重要となる。

Nation（2014）は、語彙との接触機会を増加させることが語彙習得を促す有効な手段で

あると述べている。彼は語彙学習を目的としない多読において、文脈から語彙を習得するためには最低でも 12 回の語彙接触が必要であると述べており、語彙習得のためにはできるだけ多くの接触機会を確保することが有効であると述べている。また、中田（2019）は大量のインプットにより、その語彙の様々な用例に触れることで、学習者はその語彙に対して当初持っていた知識を修正する必要性が生じ、語彙の意味的発達を促すことができると述べている。そのため、様々な文脈の中で学習者が語彙と接触する機会を増加させることで、語彙の文脈に応じた意味理解を促すことができると考えられる。

Mondria（2003）や Barcroft（2013）の研究では、語彙のインプットの間に語彙の意味を確認するという過程を挟むことで、語彙の記憶の定着が促進されたことが示されており、インプットだけではなく明示的な指導を間に挟むことで効果的な語彙学習が期待できることが示されている。

3. 研究方法

本研究では、高校生を対象に実践研究前まで行っていた授業と、基礎的な語彙を用いたリスニングと音読を取り入れた授業をそれぞれ 4 時間ずつ実施した。それぞれの授業の後で語彙テストを実施し、基礎的な語彙の文脈に応じた意味理解と文法的機能について問う問題を出題した。語彙テストの点数の上昇率を比較することで、指導の効果を検証した。

4. 結果と考察

語彙テストを比較した結果、文脈に応じた意味理解と文法的機能の両方において、基礎的な語彙を用いたリスニングと音読を取り入れた授業の方が上昇率が高く、語彙習得に有効であることが示された。語彙習得が促進された主な要因として、第一に語彙接触機会の増加が考えられる。これは Nation（2014）の研究結果が示したように、新出単語を含む文章ではなく、基礎的な語彙で構成された文章のリスニングと音読を行うことで基礎的な語彙の接触機会が大幅に増加し、習得が促進されたと考えられる。第二に、語彙指導の順序が考えられる。授業では、まずリスニングで基礎的な語彙のインプットを行い、そして本文解説の中で語彙の明示的な説明を行い、最後に音読で語彙のアウトプットを行った。この順序は間に明示的な指導を挟んでいるという点で Mondria（2003）や Barcroft（2013）の研究と一致しており、語彙習得を促す結果につながったと考えられる。第三に、生徒が限られた認知資源を基礎的な語彙の学習に使用することができたことが考えられる。新出語彙ではなく、基礎的な語彙でリスニングや音読を行ったことで、本来新出語彙の学習に使用されていた認知資源を、基礎的な語彙の学習に使用することができたことで語彙習得が促進されたと考えられる（Barcroft, 2015）。